

平成26年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



海老名市立今泉小学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5
(資料) 指導や学習・生活習慣と学力との関係	P. 6



全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査（平成23年度は震災の関係で実施を中止）でしたが、昨年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

国語A・算数A（主として「知識」に関する問題）

国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）

【中学校】

国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）

国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

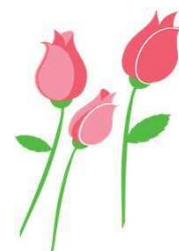
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成26年4月22日（火）



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「漢字を書く」に関する問題では「街灯」の正答率が高い。
- 「漢字を読む」に関する問題では「予防」の正答率が高い。
- 「物語を創作する」問題では、登場人物の心情を、言葉ではなく情景描写を使って表現することができる。
- 「かくれんぼう」という物語の問題では、登場人物の相互関係や心情を捉え物語文を読むことができる。これは、特に高学年の授業において、登場人物の心情やその変化に留意し丁寧に読み取る学習を継続してきた結果の表れである。

《努力を要する所》

- 「漢字を書く」に関する問題では「勢い」の正答率が低い。
- 故事成語の「五十歩百歩」の意味と使い方の正答率が低い。
- 国語辞典に載っている「はかる」の言葉の、意味と使い方を関連付ける問題の正答率が低い。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 【活用に関する問題に関しては、全体的に正答率が高い。】
- 「科学に関する本や文章などを効果的に読む」問題では、それぞれの付箋に書かれた内容を関連付けながら、要旨をまとめ書くことができる。
- 「二つの詩を比べて読む」問題では、表現の工夫に気付き、適切な言葉を選択肢の中から選択できる。全体的に、選択肢の中から答えを選ぶ回答の仕方に慣れていて、無答回答が少ない。

《努力を要する所》

- 「二つの詩を比べて読む」問題の、詩の解釈における一人ひとりの感じ方の違いに気付き、その内容にふさわしい言葉を選択する設問は正答率が低い。
- 「二つの詩を比べて読む」問題の、自分の感想を記述する解答率が低い。全ての学習場面で、自分の考えを持ち発表する学習を継続しているがなかなか身に付いていない。

今後の具体的な取組

- 漢字の読み書きに関しては、低学年からの積み重ねを重視し、また宿題等で繰り返し練習する習慣を身に付けさせたい。
- 自分の考えをしっかりと持ち、それを言葉や文字で表現する学習を重視する。併せて、ノート指導の充実も図りたい。
- 読み聞かせ等の読書活動を継続し、文学作品だけではなく広いジャンルの本を通してそのおもしろさに触れる読書活動の充実を図りたい。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「四則計算」の問題は、正答率が高い。特に「 $9-0.8$ 」「 $100-20 \times 4$ 」の正答率が高い。
- 「乗法の意味」の問題は、全問とも正答率が高い。図で示された数量関係から答えが小数倍であることを読み取り立式できる。
- 「円周、直方体の体積」の問題では、円周及び直方体を計算によって求めることができる。
- 「式の表す意味」の問題では、四則混合の式の意味をよく理解している。
- 「□、△などを用いた式」の問題では、二つの数量の関係を記号で表す方法をよく理解している。

《努力を要する所》

- 「二つの量の割合」の問題では、図から単位量当たりの大きさを読み取る問題の正答率が低い。
- 「平行四辺形の作図」の問題では、図形の性質とコンパスを使った作図の操作とが一致せず、誤答が多かった。定規やコンパスという道具を使っての作業であり、一人ひとりへの丁寧な支援を通して確実に身に付けさせたい。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 活用に関する問題に関しては、全体的に正答率が高い。
- 「計算のきまり」の問題では、 37×24 の積が888になることを式や言葉で記述できる。
- 「水の使用量」の問題では、水の使用量を説明する適切なグラフを選ぶことができる。
- 「配膳」の問題に関しては、スープの分け方について考え、その理由を言葉と数で記述できる。
言葉で記述する解答率が高いのは、今まで算数の学習で積み上げてきた「理由を添えて述べる」という学習が身に付いているためと捉える。

《努力を要する所》

- 「配膳」の問題では、準備の時間を何分にするか、示された情報を基に条件に合う時間を求める問題の正答率が低い。
- 「日本の伝統文化」の問題では、指を使った「あた」の長さを基に使いやすい「はしの長さ」を求める問題の正答率が低い。

今後の具体的な取組

- 四則計算に関しては、かけ算九九の確実な定着と、計算練習の積み重ねが大切であり、宿題等で反復学習に努めたい。
- 求積や作図では、視覚的に確認しながら理解を深めるようにする。教室に配置されているプロジェクターを効果的に活用し、指導を展開したい。
- 算数の考え方は実生活で使うことが多く、学習した内容が日常生活で活用できるような授業の工夫を心がけたい。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 家庭で、宿題や学校の授業の予習・復習をしていると回答した児童の割合が多く、家庭学習が定着していると捉える。
- 「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意」と回答した児童の割合が多い。
- 算数の学習では、新しい問題に挑戦しようとする意欲が高く、諦めずに問題解決に取り組む児童が多い。
- 読書は好きである。(当てはまるが、全国48.9%、本校58.3%)

《課題と思われる所》

- 「学校に行くのは楽しいか」「先生はあなたのよいところを認めてくれる」については、当てはまるという回答率が低い。「どちらかといえばそう思う」までを含めると全国平均と同等の割合になるが、課題である。

生活について

《よかった所》

- 学校のきまりや友達との約束を守ると回答した児童の割合が高く、規範意識の定着が見られる。
- 「家族と学校での出来事を話す」児童が多い。(どちらかかといえばそう思うまでを含めて、全国80.4%、本校89.2%)
- 「学級みんなで協力してやり遂げ嬉しかったことがある」と回答した児童が多い。(当てはまるが、全国56.9%、本校65.0%)

《課題と思われる所》

- 「自分にはよいところがある」の設問で、当てはまると回答した児童の割合が全国平均より少し低い。(当てはまるが、全国35.0%、本校30.0%)
- 1日当たりのテレビやDVDの視聴時間が4時間と回答した児童の割合が多い。(全国19.8%、本校28.3%)
- 「地域の行事に参加している」の設問では、当てはまるの回答が低い。(全国37.7%、本校26.7%)

今後の具体的な取組

- 家庭学習の習慣化については、これまでの取り組みを継続しながら、全学年で足並みをそろえ各家庭に周知していきたい。
- 規範意識の定着については、今後も児童指導部を中心に全校で継続指導していきたい。
- 学級活動や道徳の指導を通して、仲間意識や自尊意識を高める取り組みを行っていきたい。
- 地域の行事や活動に積極的に参加するよう呼びかけるとともに、学校の行事に地域の人を招き交流を図る工夫をしたい。



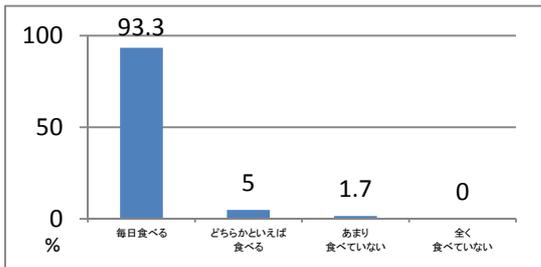
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 朝ご飯は一日の元気の源です。

毎日朝ご飯を食べて登校する児童の割合が高いです。これからも継続しましょう。

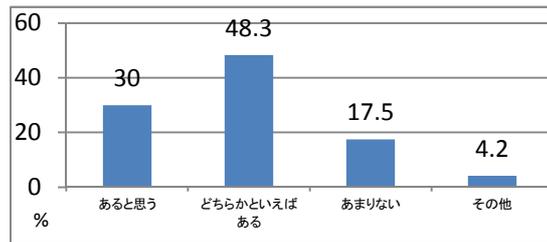
朝食を毎日食べていますか



2 お子様のよさを認めて、褒めてあげましょう。

褒められることは、自己肯定感を高めます。自分に自信を持ち積極性が培われます。

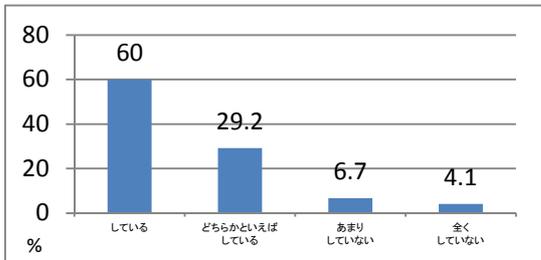
自分には、よいところがあると思いますか



3 学校の様子を話題に、家族の会話を増やしましょう。

学校の様子を知ることができ、親子のコミュニケーションを高めます。今後も継続しましょう。

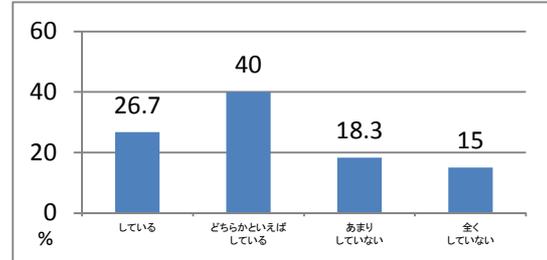
家の人と学校での出来事について話をしますか



4 地域の行事に積極的に参加しましょう。

子どもたちは地域の中で育ち、人との関わり方を学び郷土意識を培います。

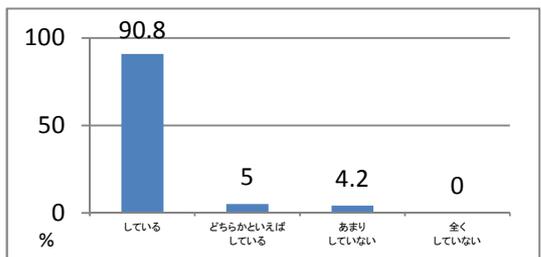
今住んでいる地域の行事に参加していますか



5 家庭学習は、学校での学びを定着し学力向上に繋がります。

家で宿題をする児童の割合が高いです。今後も継続し、ご家庭でも見守ってください。

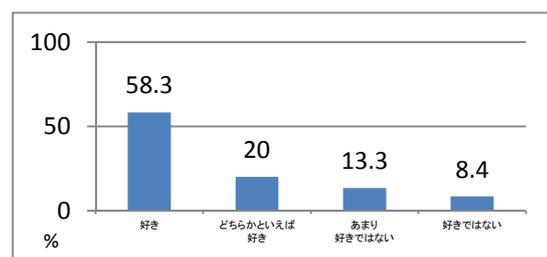
家で、学校の宿題をしていますか



6 読書は心の栄養です。本に親しむ環境を作りましょう。

読書好きの児童の割合が高いです。親子間でお気に入りの本の情報交換もいいですね。

読書は好きですか



資料

指導や学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ており、今後の指導や家庭・地域への呼びかけに生かして行きたいと考えています。

学校における指導と学力との関係

次のような指導を行った学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。
さらに、学習意欲や家庭での学習時間等についても高い傾向にある。
(教科に関する調査、学校質問紙調査より)

【指導方法・学習規律】

- ・ 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞くなど)の維持徹底
- ・ 学習方法(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど)に関する指導
- ・ 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与える
- ・ 本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導

【国語科・算数科の指導方法】

- ・ 発展的な学習の指導
- ・ 国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業、書く習慣を付ける授業、様々な文章を読む習慣を付ける授業
- ・ 算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業

【言語活動】

- ・ 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付ける
- ・ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導
- ・ 発言や活動の時間を確保した授業
- ・ 学級やグループで話し合う活動
- ・ 資料を使って発表ができるよう指導
- ・ 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導

【総合的な学習の時間】

- ・ 総合的な学習の時間における探究活動(課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導)

【家庭学習】

- ・ 調べたり文章を書いたりする宿題を与える

【研修】

- ・ 教職員が、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映

児童の学習・生活習慣と学力との関係

次のような児童ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。
(教科に関する調査、児童質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・ 国語、算数に対する関心・意欲・態度が高い

【家庭学習・読書】

- ・ 学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・ 自分で計画立てて勉強をする
- ・ 学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・ 読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【学校生活】

- ・ 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
- ・ 先生は、自分のよいところを認めてくれると思う

【基本的生活習慣】

- ・ 朝食を毎日食べる
- ・ 毎日、同じぐらいの時刻に寝る

【メディアとの関係】

- ・ 携帯電話やスマートフォンで通話・メール・インターネットをする時間が短い
- ・ テレビゲームをしている時間が短い

【家庭でのコミュニケーション等】

- ・ 家の人と学校での出来事について話をする
- ・ 家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【社会に対する興味・関心】

- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある
- ・ 新聞を読んでいる
- ・ テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る

【自尊意識・規範意識】

- ・ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・ 学校のきまり・規則を守っている
- ・ 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

「えびなっ子しあわせプラン」ってなあに？

「えびなっ子しあわせプラン」は今年度から平成28年度までの3年間の海老名市の教育プランです。

ひとりひとりの海老名の子どもが、将来、しあわせに生きるために必要な「3つの力」を小・中学校の義務教育9年間で、学校や家庭、地域の教育をとおして、確実に身につけることを目的としています。

◇◆しあわせに生きるために必要な「3つの力」◆◇

学 力

大人になっても学習をつづけるために
基礎的な学力と学習意欲を身につけよう！



.....
教員の授業力を高めます。（授業改善の取組）



.....
小中一貫教育を進めます。（試行校での研究）



.....
市費の教員やボランティアを配置します。

集団力

人間関係を作り、集団の中で自分の役割を果たし、
自分を生かす力を身につけよう！



.....
人間関係作りの学習計画を作成します。



.....
いじめや不登校の問題に積極的に取り組みます。

健康安全力

自分の健康や安全に気をつけて、
いつまでも楽しく生活する力を身につけよう！



.....
体力・運動能力の向上をめざします。



.....
自分の命を守るための学習計画を作成します。

学校と家庭と地域がスクラムを組んで子どもを支えます



みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いします。

海老名市教育委員会



平成26年12月